

国語 第6学年 冬のおとずれ 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：季節を表す語の意味と語感を比べ、伝えたい情景に合う言葉を選ぶ。文学的な言葉を多く入れることより、観察と表現が対応することを重視する。B(1)オの学習として、観察の記録、言い換えの候補、語を選んだ理由を添えた短い文章。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、伝えたい情景に合う語句かを確認、表現を選び直して文章を整えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：観察の記録、言い換えの候補、語を選んだ理由を添えた短い文章を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：難しい語ほどよいと考える、意味を調べず語感だけで用いる。これに対して、自分の観察記録と辞書の意味を並べ、使う語の候補を比べる。独自例「冷たい風が通る」と「乾いた風が通る」では何を感じた場面かを説明し、語を替える根拠を明らかにする。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。〔知識及び技能〕(1)オとB(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「似た季節の言葉でも、読み手が想像する景色はどう変わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：観察の記録、言い換えの候補、語を選んだ理由を添えた短い文章は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：難しい語ほどよいと考える、意味を調べず語感だけで用いる。自分の観察記録と辞書の意味を並べ、使う語の候補を比べる。独自例「冷たい風が通る」と「乾いた風が通る」では何を感じた場面かを説明し、語を替える根拠を明らかにする。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「似た季節の言葉でも、読み手が想像する景色はどう変わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

